

()	部長	課長	係長	リーダー	ブロック長	係員

営業開始準備点検

平成	年	月	日	曜日	天候
----	---	---	---	----	----

準備点検者	点検時間	時	分	～	時	分
-------	------	---	---	---	---	---

準備点検項目	日	週	月
1.コンプレッサのドレンを閉める(エアータンクドレンを閉める 2ヶ所)			
2.コンプレッサのオイルレベル確認(オイルもれ等)			
3.電気制御ボックス内のメインスイッチをONにする			
4.各ブレーキ横にあるオイルの油量を確認残り少なければ補給(17ヶ所)(タービン油)			
5.運転室内操作盤のキースイッチをONにする			
6.数分でエアが溜まり自動的に発車OKとなる(車輛連結ランプ点灯)			
7.レール敷地内の安全を確認後ホーンをならし発車 この時は2ヶ所の待機フィールドの搬送モータの選択スイッチをOFFしておく			
8.減速ブレーキ出口の点検場所に(前1両出た所)車輛が到達したら非常停止ボタンで止める 点検中は非常停止ボタンを押したままにしておく(キースイッチはきらない)			
・車 輪：ボルト、ナットのゆるみ割ピンの確認各車輪の回り具合ガタ、ヒビ摩耗チェック、 センターギャップ確認0.5ミリ以下 各所汚れふきとり			
・ブレーキ：ナットのゆるみ、リミットスイッチのゆるみチェック オイルUP			
・レール：車輪カスの除去、塗油ワックスがけ、搬送タイヤ空気圧、ガタ摩耗チェック			
・注 意：車輛点検で車輛を前進させる際は原則として減速ブレーキの手動バルブを開放して車輛をおすこと 操作盤のキースイッチと減速ブレーキ開放ボタンにより搬送タイヤで前進させることも可能			
1.車輛点検が終わったら非常停止を解き第2、第3の待機フィールドの搬送モータの選択スイッチをONにする			
2.車輛が自動的にステーションに入り停止する			
3.チェーンが自動的に動きプッシャーがフックにかかれば止まる			
4.車輛連結ランプが点灯すれば発車可能			
5.安全バーの作動、ヘッドレスト、ヘッドライトのガタを調べたのち試運転(通常3回) 走行音、速度、ライトの球切れに注意し異常がなければ事務所に運転開始の連絡			

《週間点検》

月	作業内容
月	P・レールオイルUP、レール点検支柱割ピンオイルUP
火	ブレーキオイルUP、リフトチェーンオイルUP、車輛連結部グリスUP (S)
水	搬送タイヤグリスUP、トラバサールオイルUP、車輛連結部グリスUP (W)
木	P・レールオイルUP、レール点検、エアータンク水抜き
金	リフトプロケグリスUP、PグリスUP、機械室内グリスUP
土	P・レールオイルUP、リフトチェーンオイルUP
日	安全バーボッチオイルUP、車輛入換

試運転タイム	
1	
2	
3	
4	
5	
6	

(部品交換基準)

搬送タイヤ 空圧5.0kg / cm²
 主車輪 ディップス12.0mm
 サイド、アンダー車輪 側面14.0mm
 台車受車輪 側面12.0mm
 車輛付ブレーキフィン フィン交換厚さ 5.0mm
 ブレーキ板(ライニング) ライニング摩耗交換5.0mm

毎月1日 車輪測定

- ・主車輪グリスUP
- ・安全バー上下グリスUP
- ・受車輪 グリスUP
- ・ブレーキ グリスUP